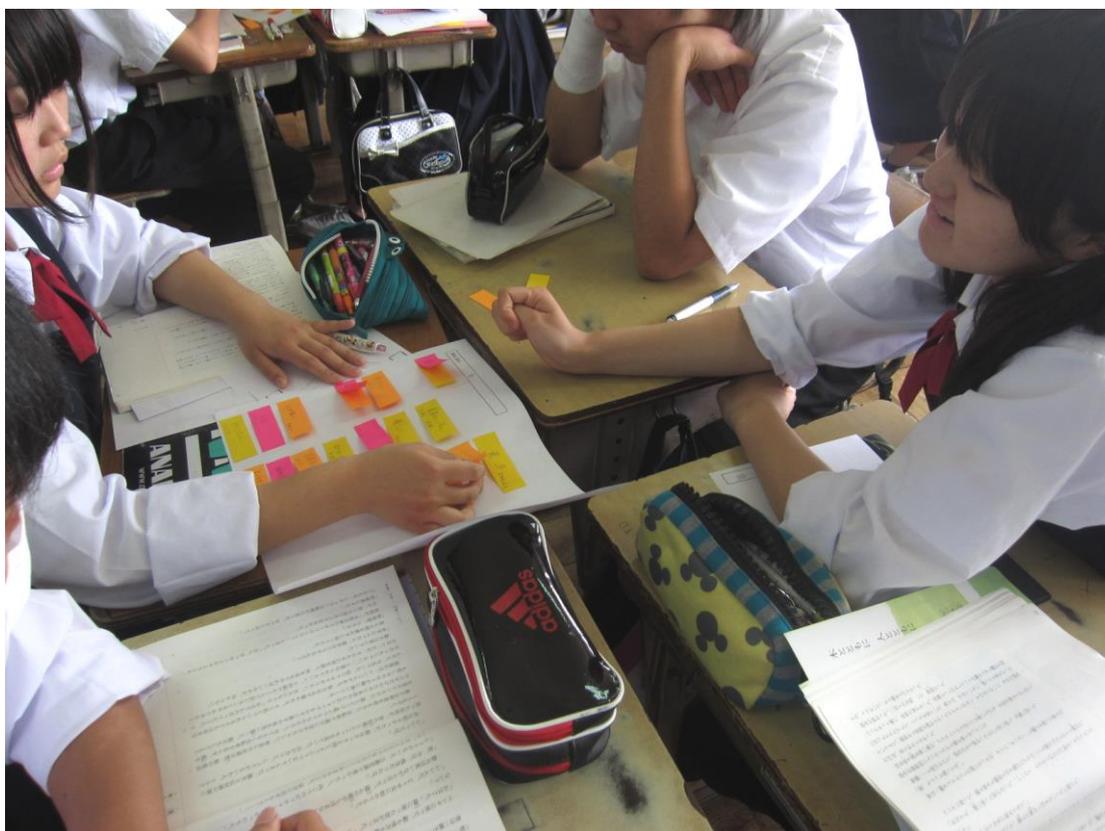


(発表資料)

① 合意形成能力を育む国語科学習指導の在り方
－K J法の活用を通して－



高崎しいの木学園 つくば市立高崎中学校
教諭 前嶋 洋子

1 主題設定の理由

中学校学習指導要領「話すこと・聞くこと」の指導内容において、第1学年では「話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の意見をまとめること」、第2学年では「相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること」とある。また、話し合いは、情報の交換や意見の調整を通して新たな価値を創造したり、一定の合意を形成して物事を決めたりすることを目的として行われるものである。このように話し合うことのできる能力を「合意形成能力」という。

しかし、本校の生徒は、話し合い活動を行っても、個々の意見発表だけに終わってしまうことが多い。話を聞くことはできても、自分の意見と比べたり、新たな考えを見出そうとしたりせず、話し合いが滞ってしまう。最終的には、一人の考えのみをグループ全体の考えとしてまとめてしまうことも多い。つまり、「合意形成能力」が十分に育成されていない状況にあると言える。

本研究では、話し合い活動においてKJ法を活用することで、積極的に意見を出し、共通点や相違点を明らかにしながら考えをまとめたり広げたりすることで「合意形成能力」が育成できると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

第7学年「言葉の定義を紹介し合おう」、第8学年「登場人物の性格をレーダーチャートで紹介し合おう」の実践を通して、KJ法を活用した「合意形成能力を育む国語科学習指導の在り方」について究明する。

3 研究の内容

(1) 基本的な考え方

「合意形成能力」について以下のように考え、本研究を進めていく。

- ア 互いの意見を検討して共通点や相違点を明らかにし、自分の考えを広げる力
- イ 話題になっている物事について別の視点から考える力

(2) 研究の方法

言葉の定義を考える活動や登場人物の性格診断レーダーチャート項目作りの場面でKJ法を用い、合意形成能力を育成する。

4 研究の実践

(1) 実践例1 単元名 話し合いで理解を深めよう ―グループディスカッション― 「言葉の定義を紹介し合おう」

ア 授業のねらい

お互いの体験や考えを出し合い、考えをまとめたり、広げたりする。

イ 単元計画

(4時間扱い) 平成24年度 第7学年 2月実施

次	時	学習内容・活動方法	評価
1	1	・4人グループで、定義したい言葉(希望、夢、勇気、信頼など)を決め、各自、その言葉に関する体験や考えをたくさん付箋に書き出す。(KJ法)	・自分の意見や考えを積極的に書き出している。 (付箋)

2	・共通点や相違点を見つけ、付箋を整理して見出しを付け、選んだ言葉について理解を深める。(K J法)	・体験や考えの共通点を見つけて付箋を整理し、選んだ言葉について理解を深めている。(観察・発言・付箋)
3	・付箋を整理したものをもとに話し合い、自分たちが選んだ言葉を定義して、フリップにまとめる。	・話し合いに参加して、自分たちが選んだ言葉を定義している。 (観察・発言・フリップ)
4	・各グループから1名ずつ集まって新たなグループを作り、元のグループで行った言葉の定義を、フリップを使って紹介し合う。 ・元のグループに戻り、発表に対してどのような質問や感想、意見が出たかを紹介し合い、発表を振り返る。	・フリップを使って言葉の定義を紹介している。また、他の生徒の発表に対し、質問や感想を述べている。 (発表・発言)

ウ 合意形成能力を育成するための工夫

a 付箋を使って発想を広げ、考えを整理する。(K J法) → 「合意形成能力」ア

付箋に書き出せない生徒もいたため、まず選んだ言葉に関する体験や考えについて話し合わせた。その後、付箋には、話し合ったことや思いついたことをできるだけたくさん書き出すよう指示した。制限時間を設けると、他のグループより付箋を多くしようと、自分の考えを積極的に書くことができた。

台紙に貼り集められた付箋は、共通点や相違点を考え、まとめさせた。まとめたものに新たな見出しを付けた。たくさんまとまりができた場合には、優先順位をつけさせた。生徒は、自分の書いた付箋がどのように活用されるか関心をもち、話し合いに積極的に参加することができていた。

また、K J法を活用することで、フリップに書く内容を決める際にも、見出しや付箋をまとめればよくなったため、スムーズに活動を進めることができていた。

別添資料①②③参照

b 元のグループを解体し、新たなグループを作り、発表する。→ 「合意形成能力」イ

一方的な発表にならないよう、新たなグループの中で元のグループの意見を発表し、互いの意見を交換する場とした。出し合った質問や感想・意見は元のグループに戻し、振り返りに生かすことができた。

別添資料④⑤参照

エ 生徒の感想

(「振り返りカード」より原文のまま抜粋)

- ・ いつもはふせんを使ってないから、あんまり自分の意見などはずかしくて言えなかったけど、今回はふせんを使ったことで自分の意見を言うのが楽しくなって、ふせんの量もふえることによってもっともっとふせんの量をふやしたい！という気持ちがあったからとても自分の意見を言いやすかったです！
- ・ 今まで自分で思ったことをまとめるだけだったけど、今回の授業を受けて、グループで話し合ったり、まとめたりすることで、より良いアイデアや内容を生み出すことができた。一人だったら思いつかないような文章の表現の仕方など、学ぶことがたくさんあった。とてもよい経験ができた。
- ・ 私は今まで「みんなで話した結果をまとめる」というのが苦手だったけど、今回は、班の人といろいろな話をしながらまとめることができてよかったです。発表した後に書くコメントも、1回目は結構短かったけど、2回目は1回目の倍ぐらい書けて、そういった部分の力もついたと思います。

- ・ どの言葉とどの言葉がどういうつながりがあるのかなどを考えることで、国語だけでなくいろんな知識を使って考えることができた。また、話し合うことで自分の視野が広がることを改めて知ることができた。
- ・ 「絆」というのはとても難しく、初めはどうなるかと思ったけど、みんなで話し合うことによって、まとめたりすることができたからよかった。
- ・ 皆でふせんに考えを書いたのがとても楽しかった。班の皆と考えたからたくさんの方が考えた。

オ 考察

KJ法を活用することで、意欲的に考えを出すことができる生徒が増えた。また、付箋を使うことでグループの考えが可視化されるので、互いの意見の共通点や相違点を的確に捉えることができ、自分たちの考えをさらに広げようという意欲が高まった。しかし、見出しを付けるときには、なかなかアイデアを出せず、教師に助言を求める生徒が多かった。さらに、新たなグループで言葉の定義を発表するだけでなく、質問や感想・意見を元のグループに伝えることで、グループの考えを深めることができた。

(2) 実践例2 単元名 卒業ホームラン

「登場人物の性格をレーダーチャートで紹介し合おう」

ア 授業のねらい

他の意見との共通点・相違点をもとに、自分の考えを広げる。

イ 単元計画

(5時間扱い) 平成25年度 第8学年 6月実施

次	時	学習内容・活動方法	評価
1	1	・登場人物とそれぞれの状況、あらすじを確認する。	・小説のあらすじの把握や登場人物についての理解を深める学習に取り組もうとしている。 (観察)
	2	・会話や行動の描写から、登場人物の思いを捉える。	・人物の会話や言葉遣い、行動・態度に注意して、登場人物の思いを捉えている。 (ノート・発言)
	3	・4人のグループを作り、選んだ登場人物の見方や考え方をできるだけたくさん付箋に書く。それらの付箋をまとめ、性格診断レーダーチャートの5項目を決定する。(KJ法)	・登場人物の行動や会話などの表現を根拠として、自分の考えを付箋に書き出している。 (付箋) ・共通点や相違点を捉えて付箋をまとめ、項目を考えている。 (付箋・観察)
	4	・グループで意見を出し合い、根拠となる表現を明らかにしながら、性格診断レーダーチャートのそれぞれの項目を1～5段階で評価する。	・根拠となる表現を明らかにしながら、登場人物の性格を診断している。 (レーダーチャート表・解説シート)
	5	・同じ登場人物を選んだ他の班とレーダーチャートを交換し合い、性格項目を評価し合う。共通点や相違点も確認する。 ・グループでレーダーチャートをもとに発表し合い、	・登場人物の人物像について紹介し合い、共通点や相違点に着目して、自分の考えを深めようとしている。 (交換・聞き取り用レーダーチャート表)

	共通点や相違点をもとに質疑応答をすることで互いの考えを深める。	
--	---------------------------------	--

ウ 合意形成能力を育成するための工夫

a 付箋を使って発想を広げ、考えを整理する。(KJ法) → 「合意形成能力」ア

性格診断レーダーチャートの5項目を決定する際に、KJ法を活用した。付箋には、選んだ登場人物の行動や考え方の特徴を書かせた。KJ法は何度か経験しているため、生徒はスムーズに付箋に書き出すことができていた。ただ、今回は付箋に考えを書き出すだけでなく、その考えの根拠となる表現もメモするよう指示した。同じ考えでも根拠となる表現が違ったり、同じ根拠となる表現でも捉え方が違ったりすることに着目することができた。

別添資料⑥参照

b 交換用レーダーチャート表を活用する。 → 「合意形成能力」イ

同じ項目は赤で、違う項目は青で囲むなど、共通点・相違点を意識させた。事前にレーダーチャートを交換し合ったことで、他のグループの発表を聞いたり、質問をしたりすることがスムーズにできた。

別添資料⑦⑧⑨参照

エ 生徒の感想

(「振り返りカード」より原文のまま抜粋)

- ・ 他の班には、「ポジティブ」など考えもつかなかった項目が多かった。同じ登場人物の班だけでなく、他の班の発表も、どれも納得のいくもので、すごいと思った。
- ・ どの班にも、「やる気」の項目があった。「反省心」や「意志の強さ」、「父親への思い」などという項目は思いつかなくて、なるほどなぁーと思った。似たような結果だったが、こちらの班にはないような考えを他の班は持っていてとても参考になった。
- ・ 「クールさ」、「とげとげしさ」という考えは、自分たちの班では出てこなかったの、1班はすごいと思う。同じ項目もいくつかあったけど、ほとんど違う項目ばかりで、登場人物の性格についての考えが少し変わった。
- ・ 智の性格で気付かなかった部分を他の班が見つけていて、なるほどなと思った。意味は同じでも、言葉の表し方で、印象が違ってくることも分かった。
- ・ 「責任感」という項目も評価もおなじだったけど、「ゆうじゅうふだん」という考えは、6班では全然でなかった。徹夫の性格を担当したグループで、色々、項目が変わっていて、色々な項目を聞いたり、評価をしたりするのが楽しかった。

オ 考察

本単元では、自分たちの考えた人物像を分かりやすくまとめ、伝えるための資料として、レーダーチャートを利用した。レーダーチャートを利用し人物像を捉えるために、次のような段階を踏んだ。

第1段階(第3時)では、選んだ登場人物の性格を表すレーダーチャートの項目を決定した。まず、一人ひとりが、登場人物のものの見方や考え方をできるだけたくさん付箋に書いた。それらの付箋を班でまとめ、KJ法による話し合いで5項目を決定した。この方法は、合意形成能力を向上させるとともに、登場人物の性格を多面的に捉え、自分の考えを深める手だてとなった。

第2段階(第4時)では、班で考えたレーダーチャートの項目ごとに、人物の性格を評価(1~5)していった。その際、それぞれの項目ごとの解説シートも用意して記入させ、どの表現から評価したのか、根拠となる表現を明らかにする手だてとした。

そして、第3段階（第5時）では、同じ登場人物を選んだ他の班にも、自分たちが作ったレーダーチャートで人物の性格を評価してもらった。この方法は、その後に班ごとに全体の場で発表する際、お互いの考えの共通点や相違点が明らかとなり、それが班ごとの意見交流の材料ともなるため、さらに集団の考えを深める手だてとなった。

最後に、班ごとの発表では、同じ登場人物でも、班によって評価項目が違ったり、評価が違ったりすることに気付くことができた。また、自分だけの考えだけでなく、他の意見や他の班の発表を聞くことで、登場人物の性格をさらに多面的に捉えることができるようになった生徒が増えた。

しかし、考えを伝える表現力は課題である。特に「発表する場面」については、さらにスキルを向上させる必要がある。例えば、声が小さかったり、話すスピードが速かったり、下を向いてしまったりする生徒がいたことである。これは、発表に慣れていないということもあるが、自分の発表を客観的に自己評価することができていないとも考えられる。そこで、今後は、発表の様子を教師側で撮影し、教師や他の生徒からの評価だけでなく、自分で発表を振り返り、直すべき所に気付かせていくようにしたい。

次に、他の意見に対して、疑問をもち、質問する態度も課題である。合意形成能力のひとつである、互いの発表をよく聞いて意見を取り入れる力は徐々に向上している。しかし、他の発表に対して、質問をすることを苦手とする生徒が多い。授業では、教師が質問をするよう促しても、なかなか挙手をして質問をすることができなかった。そこで、今後は、「5W1H」を使った質問の仕方の指導にも力を入れていきたい。特に、WHY（なぜ）・HOW（どのように）について質問するスキルトレーニングを取り入れていきたい。

5 研究の成果

- (1) 付箋を活用したことで、意欲的に自分の意見を出す生徒が増え、話し合い活動が活発になった。
- (2) KJ法を活用したことで、個々が発表するだけの話し合い活動ではなく、お互いの意見の共通点や相違点に着目することができた。また、言葉の定義の見出しや性格診断の評価項目を決めるなど、班の意見をまとめ、新たな考えを導き出すことができるようになった。これは、合意形成能力の基本的な考え方の「**ア 互いの意見を検討して共通点や相違点を明らかにし、自分の考えを広げる力**」が向上したと言える。
- (3) 「登場人物の性格についての考えが少し変わった。」という生徒の感想からも、自分の意見にだけ固執せず、相手の良い所を認め、自分の意見に取り入れようとしていることが分かる。これは、合意形成能力の基本的な考え方「**イ 話題になっている物事について別の視点から考える力**」が向上したと言える。

6 研究の課題

- (1) KJ法をさらに活用させるとともに、他にも様々な話し合い活動の方法を工夫し、合意形成能力の育成を目指したい。
- (2) 全体の場での発表の仕方を工夫したり、その場での確かな質問や意見が言えるように経験を重ねたりする必要がある。
- (3) 今回は紙媒体でレーダーチャートを作成したが、ICTやグラフを活用した授業の研修を進めたい。
- (4) 振り返りカードなどによる自己評価、コメントカードなどによる相互評価などを用いたが、「話すこと・聞くこと」に関する評価の仕方にはさらなる工夫と明確性が必要である。

別 添 資 料

資料⑤

新しいグループでの発表後のコメント・質問など、自分の感想・反省

コメント・質問など

人柄って言葉が分かり

やすくいいなと思った。

例えもなるほどって感じた。

コメント・質問など

復にはいろいろ意見がでるの

で。その中で4つにまとめたの

はずこいと思いました。

コメント・質問など

内容はとってもわかりやすく

よかったです☆

例えもとてもわかりやすく

するよ、いいね (100%)

感想・反省

「優しさ」について深く

定義することができた。

またたくさんの言葉を定

義したいと思う。

資料⑥

付箋に根拠となる表現がわかるようページ・行数を記したもの (KJ法の活用)

明るくふるまうことができる。

P.42 l.18 ~

自分の気持ちを (積極的
出せない じやない)

P.43 l.2

試合に出たかった

P.43 l.2

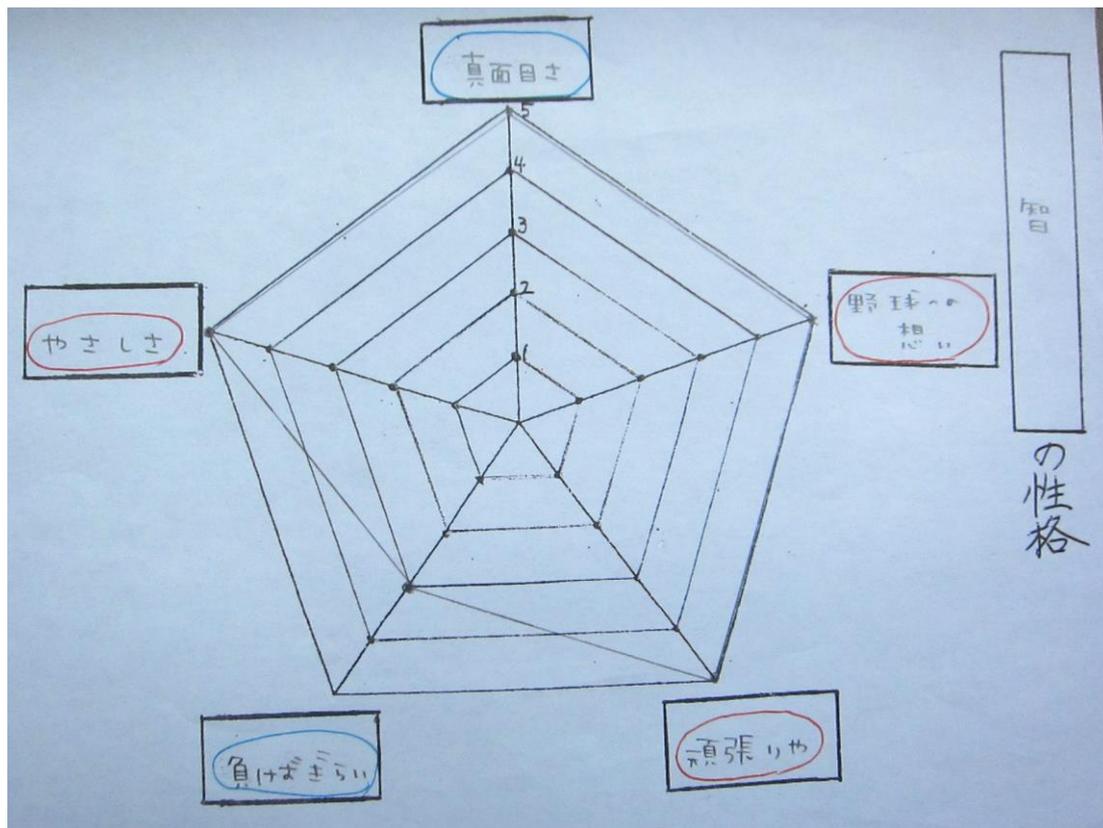
じの中ではすこし悔しい

P.41 l.20 ~



資料⑦ 同じ登場人物を選んだ班の評価を行い、同じ項目は赤で、違う項目は青で囲ったもの

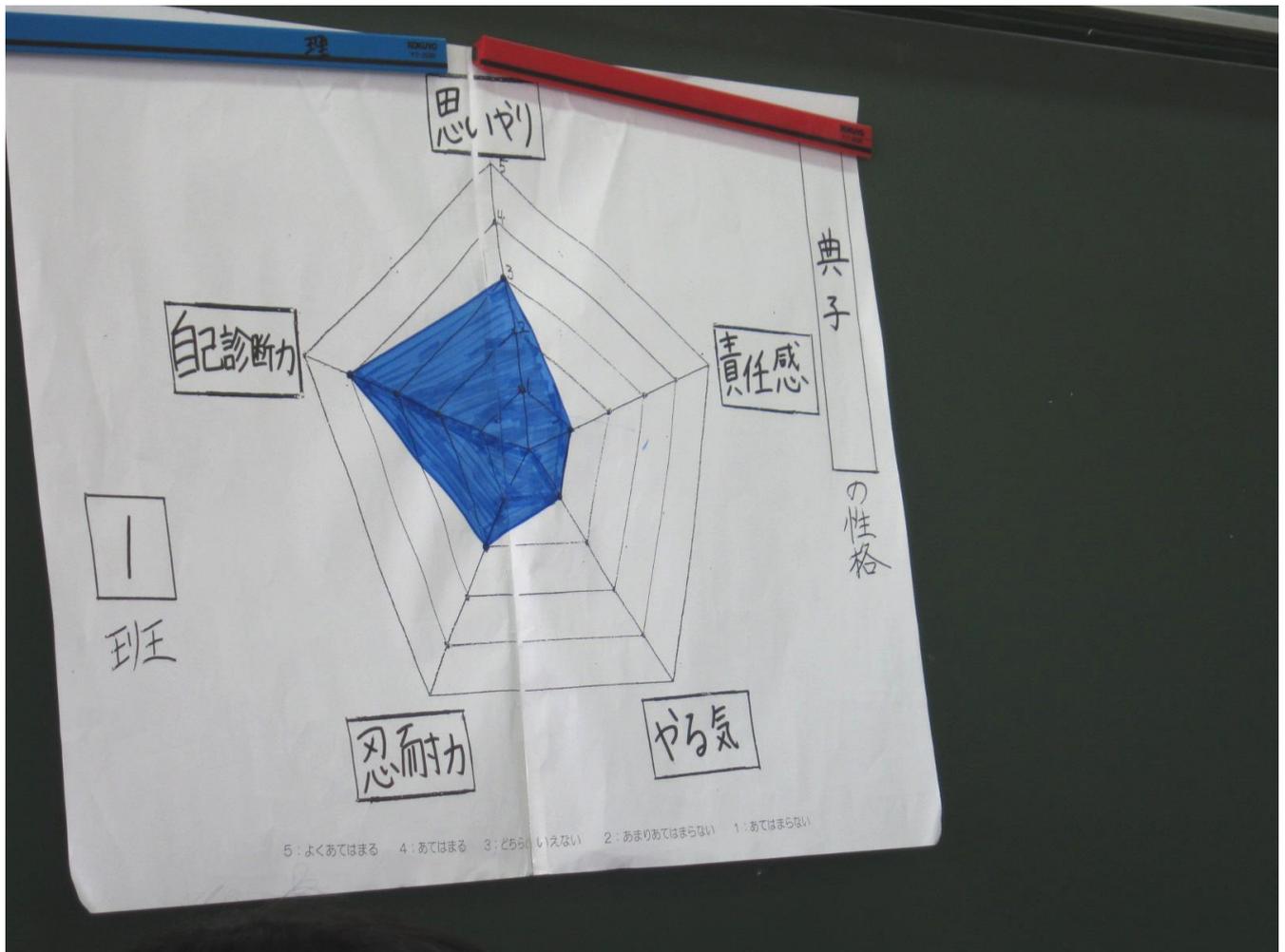
(交換用レーダーチャート)



資料⑧ レーダーチャートをもとに発表している様子



生徒が作成したレーダーチャート



資料⑨ 質問をしている様子

